

# 自己点検・自己評価の公表について

学校法人 名古屋大原学園

## 1. 当学園における自己点検・自己評価の取り組みについて

専修学校における自己点検・自己評価は、平成19年に学校教育法及び同施行規則の改正により義務付けられることとなりましたが、本学園におきましては従前より独自の方法で評価点検とその改善に努めてまいりました。

平成27年度においても、より同法に則った項目で点検・評価を実施しましたので、ここにその結果を公表いたします。本学園における教育の現状を正しくご理解いただき、より一層のご支援を頂ければ、幸甚に存じます。

なお、自己点検・自己評価の詳細につきましては、本学園各地区各学校HP上で学校関係者評価報告書とともに自己点検・自己評価の総括表を公表するとともに、各学校内で詳細報告書を公開しています。閲覧ご希望の方は、日時をご予約のうえご来校ください。

## 2. 平成28年度自己点検・自己評価の結果について

本学園の教育理念を念頭に置き、分野ごとに行う専門教育を通じ、教育基本法に謳う“人格の完成”を目指し、“社会の形成者”として必要な資質を備えた身心ともに健全な学生を育成するため、すべての業務に誠意と情熱をもって対応します。

### (1) 教育理念・目標

本学園では、学園の基本運営方針・教育目標・学園スローガンを定め、事業計画書等で明確に公表するとともに、職員総会ははじめ定期的に確認・点検できる場を設けています。

専門課程の目標：早期大人化教育、資格試験・公務員試験など専門教育の充実

### (2) 教育活動

本学園では、変化の激しい社会ニーズに応えるため、毎年個別委員会を設置し、各事業年度の重点項目を定め、時代に即応した実践的な教育を展開できること、将来へ向けての準備を怠らないことに重点を置き、各テーマに取り組んでいます。

各校各学科とも、それぞれの分野からの人材ニーズを適切に把握し、目標人材像を定め、それに応じたカリキュラム等教育計画全体を定期的に見直しています。

教育現場においては、資格教育に留まらず、「自己管理能力」「協調行動力」など職業現場で必要とされる能力の開発など、産学連携の職業教育にも注力しています。

### (3) 学生支援と教育成果

本学園は、全国展開する大原グループの一員として、授業カリキュラムから就職指導に至るまで、総合グループ校の特徴を生かすことにより、良質の教材の提供・高度な職員のスキル・全国を網羅する求人網等、学生の満足度の高い学校を実現しています。

各校ともクラス担任制で運用することにより、学生本人だけでなく父兄・出身校とも連携をしっかりと行い、よりきめ細やかな学生管理を行うことによって、国家試験の合格率や就職率など高い教育実績とともに低退学率を実現しています。

学園主導で「大原カーボンオフセットプログラム」に取り組み、各校とも学生が主導となって地域活動やボランティア活動に参加できる環境を整えています。

#### **(4) 法令等の遵守**

本学園は、会計・法律の資格指導校である特色を生かし、新制度や規定の制定に積極的に取り組んでいます。

個人情報に関しては、個人情報保護管理者を置き、法令の遵守に努めるだけでなく、詳細な学内規定『個人情報取扱規則』を策定し、全ての個人情報の取り扱いには細心の注意を払っています。

本学園は、自己点検・自己評価の実施と公表を、今後も積極的に行っていきます。

学校法人名古屋大原学園

##### **【名古屋】**

大原簿記情報医療専門学校  
大原法律公務員専門学校  
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校

##### **【岐阜】**

大原簿記医療観光専門学校 岐阜校  
大原法律公務員専門学校 岐阜校

##### **【津】**

大原簿記医療観光専門学校 津校  
大原法律公務員専門学校 津校

##### **【浜松】**

大原簿記情報医療専門学校 浜松校  
大原法律公務員専門学校 浜松校  
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 浜松校

##### **【静岡】**

大原簿記情報医療専門学校 静岡校  
大原法律公務員専門学校 静岡校  
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 静岡校

##### **【沼津】**

大原公務員医療観光専門学校 沼津校  
大原介護福祉専門学校 沼津校

作成者: 大石健二

作成日: 平成29年4月30日

サンプル数(評価数値の分布合計): 9

## (1). 教育理念・目標

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
②学校における職業教育の特色は明確になっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	1	1	0
③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	5	0	0
④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	7	0	0
⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	2	1	0

## ①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価されたが、「②学校における職業教育の特色は明確になっているか」、「⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか」については、「やや不適切」とされている。

これは、公務員試験合格を目指す当該学科においては、中立性・公平性を保つ公務員との密な関係を構築することが事実上困難であり、職業教育・業界のニーズに合わせた教育を施すということに対して満足できていない教員からの指摘である。

一方、前回評価時には「④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」について「やや不適切」との評価があったが、担任から保護者へ個別に話をする機会を増やすなどすることにより、今回評価では改善がみられた。ただし、すべての保護者に対して周知できているとはいえないため、今年度以降は入学後早々に「保護者ガイダンス」を行うこととした。短時間の保護者ガイダンスの中で「学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想」を伝達するための説明資料等を検討することが今後の課題である。

## ②今後の改善方策

「②学校における職業教育の特色は明確になっているか」、「④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」については、上述の通り、短時間で説明を行うための資料内容の検討を行う。昨年度は伝えたい内容を絞り込めず資料が多くなりすぎてしまったとの反省があがっている。今年度はポイントを絞り、保護者も短時間で理解できる資料を作成し、説明を行う。

「⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか」については、学内における官公庁説明会の開催、官公署における説明会への参加、官公署見学等、採用担当者等の業界関係者と学生が直接対話できる機会の増加を図りたい。また、公的な研修の機会があれば積極的に参加していきたい。

これらの機会を増加させることにより、業界のニーズを今以上に把握できるものとする。

**③特記事項**

前回評価時は「②学校における職業教育の特色は明確になっているか」、「③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか」、「④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」、「⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか」の4項目において「やや不適切」との評価があったため、前回評価時と比較すると改善傾向にある。

また、平成28年度の学校関係者評価委員会において「①学校の理念・目的・教育人材・特色・将来構想」について、「もう少し親近感が出るような内容としたらどうか」との指摘を受け、入学後の学校生活の様子がイメージできるよう、行事・イベントで撮影した画像を盛り込んだものを学内に掲示するよう改善した。これにより、学校・学科の特色が理解できるものと考えている。

前年度同様、「入社2年目以上のレベル」の知識・常識・マナーを身につけて社会に出るための、4つの職場検定（自己管理能力、協調行動力、IT活用力、国際行動力）及び、熱い気持ちと大きなロマンを持って社会に出るための、「公務員魂」「職業人魂」についての指導を継続して行う。

また、「公務員試験は就職試験である」ということを学生に意識させ、教職員は「就職後、活躍できる人材を育てたい」という考えで教育を行っていることを学生に伝えていく。

## (2). 学校運営

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①目的等に沿った運営方針が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
②運営方針に沿った事業計画が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	3	0	0
③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
④人事、給与に関する規程等は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0
⑤教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	3	0	0
⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	5	0	0

## ①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価された。平成27年度と比べ「③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか」「④人事、給与に関する規程等は整備されているか」の項目においては「適切」の評価意見が増加した。また、「⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか」の項目は、「やや不適切」との評価意見がなくなり、改善が図られたものと考えられる。

しかし、平成27年度までと同様、「適切」という評価意見が少なく、今後も改善の余地がある。「ほぼ適切」と評価した者の意見としては、「新しいシステムへの知識がなく、自身で学ぶのは難しい。」などがあり、新システムに関する知識習得、活用方法について職員研修を行う必要を感じる。

## ②今後の改善方策

平成27年度より引き続き検討してきた情報システム化については一部署だけで対応できる問題ではないため、他部署との連携しながら進めていきたい。また、情報技術の知識習得のための報奨金制度を設けるなどし、資格試験受験の支援を行ってきたが、一部の教員のみでの取得にとどまってしまうため、他の教員も受験、取得の機会を増やしていきたい。

「⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか」の項目は良い評価が出ているが、情報セキュリティに関しては重要事項であるため、全教職員が常に注意を払って情報を取り扱うよう引き続き啓蒙を行っていく。

## ③特記事項

「③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか」の項目については、個別委員会制度により、将来的な社会のニーズを研究し、構想を練っている。

「⑤教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか」の項目については毎年作成される事業計画に基づき、学園理事会、内部監査、評議委員会、学園学校長会議などを適時適切に開催し、学校運営状況が報告されている。

「⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか」の項目については学校案内書、ホームページだけでなく、学校生活を教員および学生が写真や文面をSNS(social networking service)に載せることにより、親しみやすい状態の情報を公開している。

## (3). 教育活動

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	3	0	0
③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	5	0	0
④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	4	0	0
⑤関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	5	0	0
⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	4	2	0
⑦授業評価の実施・評価体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	6	1	0
⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	2	2	0
⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	5	0	0
⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	6	0	0
⑪人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	3	2	0
⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	2	1	0
⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	1	0
⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	3	2	0

## ①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価された。平成27年度と比較し、「④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか」の項目は「適切」との評価が増えた。

しかし、評価項目のうち「⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置付けられているか」「⑦授業評価の実施・評価体制はあるか」「⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか」「⑪人財育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか」「⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントがおこなわれているか」「⑬関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか」「⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか」の項目に関し「やや不適切」との評価意見があった。

教職員の能力向上については、以前より個人にゆだねられているため、体制やマネジメントという面で「やや不適切」との指摘があったものである。外部研修への参加機会は増加したが、内容も含め今後も検討しなければならない。

教職員を対象とした資格取得研修や業務範囲拡大研修等の研修制度が設けられているが、平成27年度の懸案事項となっていた授業評価研修が教職員の能力開発に繋がっていないという点については、改善が不十分であった。また、教職員の異動などが重なったために全教職員を対象とした授業評価が十分にできなかった。

## ②今後の改善方策

教職員に対する授業評価、資質向上のための取り組み、研修等については若手教員中心に行ってきた。そのため教員全体に対して行えていなかった。今後はベテランの教員に対しても若手教員同様に資質向上の対策を行っていく。そのために各教員が職務上必要な知識、資格・技能等を取得できているかを数値化し、足りない部分を習得することとする。

毎年実施している教職員の自己申告面談などで自己啓発としての個人目標設定と進捗度チェック表の確認を行い、適時指導を行っていく。

## ③特記事項

学生にしっかりと職業観を持たせることが教員の使命であり、その点は平成27年度の学校関係者評価委員会においても指摘されていた。学生に職業観を持たせるためには、インターンシップの実施が最善であろうが、中立性・公平性・情報の秘匿性を求められる公務に携わる場において、全学生の受け入れが可能なところはみつからないのが実情である。そのため、その代替手段として官公署見学会への参加や学内における官公庁説明会等を実施した。特に学内での官公庁説明会に卒業生を講演者として招き、「先輩」として現在の仕事内容や活躍ぶり、職場雰囲気等を学生に講演してもらう方法は、在校生にとっても親近感がわくようで好評であった。今後も数多く実施する予定である。

教員は学生にとって、知識を教える「学校の先生」とすると同時に「人生の先輩」でもある。教員自身が日々自己研鑽を行い、学生の見本となるよう役職者から全教員に対し、指導している。教職員の自己研鑽のためにも、教職員対象の研修制度に積極的に参加するよう、今後も啓蒙を進めていきたい。

## (4). 学修成果

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①就職率の向上が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	5	0	0
②資格取得率の向上が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	7	0	0
③退学率の低減が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	3	0	0
④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	2	1	0
⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	3	1	0

## ①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価された。平成27年度と比較して「①就職率の向上が図られているか」「③退学率の低減が図られているか」「④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」の項目は「適切」との評価が増加した。

しかし、「④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」、「⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか」の項目においては、「やや不適切」との評価意見が挙げられている。

これは、現状、卒業後の各人の活躍を把握する手段がなく、元担任などと比較的連絡の取りやすい卒業生のみ状況把握となっていることに対する指摘である。

## ②今後の改善方策

「②資格取得率の向上が図られているか」の項目については主に漢字検定の対策が不十分であったことを反省している。テキスト・ミニテスト・模擬試験など教材は十分整っているが、それらを有効に活用できていなかったことが要因である。授業内ですべてを行うことはできず、放課後学習、自宅学習も不可欠であるが、学生自身に自己管理能力がまだ備わっておらず、自己学習が不足していることが問題であると思われる。今後は今まで以上に自己管理能力を身につけさせる指導を行っていきたい。

「⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか」の項目については就職先との連携が必要である。業界のニーズを把握する意味も含め、就職先への訪問を行い、状況確認を行っていく。

## ③特記事項

平成27年度までは「③退学率の低減が図られているか」の項目が問題になっていた。退学の主な原因として、学生の経済的な問題と入学目的が「公務員に合格すること」である学生が多く、公務員試験終了後の在学目的を喪失してしまうことが挙げられていた。

これに対し、経済的な問題に関しては学費支援制度の活用の啓蒙を行ってきた。制度を準備していてもその活用方法を知らなければ改善されないため、教員が学生面談を行う際、いくつかの方法を提示することにより、学生が卒業まで諦めず、続けることができるようになった。また、入学当初から教員が学生に向けて丁寧に指導・説明をすることにより、学生の在学目的を「公務員試験に合格すること」から「社会に出て活躍できる人材になること」という方向へ意識改革ができ、改善されたと考えている。

なお、大原学園への入学目的の一つに「本気モードで楽しむキャンパスライフ」というものがある。学生には数々の学校行事に参加することで、学生自身を積極的な人間に育て、多くの友人をつくり、そして大きな自信と思い出をもって社会に出ていくことを望んでいる。



## (5). 学生支援

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①進路・就職に関する支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	4	0	0
②学生相談に関する体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	3	1	0
③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	3	0	0
④学生の健康管理を担う組織体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	5	0	0
⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	3	0	0
⑥学生の生活環境への支援は行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	4	1	0
⑦保護者と適切に連携しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	5	0	0
⑧卒業生への支援体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	3	1	0
⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	1	1	0
⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	2	1	0

## ①課題

全体としては概ね、「適切～ほぼ適切」と評価された。平成27年度と比較し「③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか」、「⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか」の項目は「適切」との評価が増えた。

しかし、「②学生相談に関する体制は整備されているか」、「⑥学生の生活環境への支援は行われているか」、「⑧卒業生への支援体制はあるか」、「⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか」、「⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか」で「やや不適切」との評価が見られた。

「⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか」についても「やや不適切」との評価意見があったが、受験資格に年齢制限のある公務員試験合格を目指す学科であること、また専門課程はその特質上、平日・昼間の授業であることから、希望する社会人全ての方を受け入れることはできない。専門課程での受け入れは、18歳から22歳程度の学生を中心としている。

②今後の改善方策

「②学生相談に関する体制は整備されているか」、「④学生の健康管理を担う組織体制はあるか」、「⑥学生の生活環境への支援は行われているか」の項目については担任だけに任せるのではなく、早い段階で教務責任者も関わり、学生と話をしながら、学生にとってよい方法をアドバイスしていく。また、必要な限り有意義な知識を身につけるため、教員にはメンタルケアやコーチングといった知識の勉強会を開いていく。

「⑧卒業生への支援体制はあるか」の項目は社会人講座受講時の割引制度などをすでに行っているが、日頃より告知して在校生やその家族に周知する。さらに、転職の必要があった場合などの転職活動への支援も可能な限り行っていく。

③特記事項

「①進路・就職に関する支援体制は整備されているか。」の項目については就職サポート室に専属の職員を配置するとともに、教員も合わせて就職活動の指導を行っている。

「②学生相談に関する体制は整備されているか」の項目については、教員がメンタルヘルスマネジメントの資格試験に合格し、知識を増やすことで対応を図っている。

「⑦保護者と適切に連携しているか」の項目では遅刻、欠席などの目立つ学生がいた場合、担任から保護者、ご家族に連絡をとって対応している。また、保護者ガイダンスなどにおいても学生指導への協力を求めている。

「⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか」の項目では社会人講座を開講することで働きながら学べる体制も準備している。講義だけでなく個別対策なども行い、新たなる就職活動の支援も実績を残している。

「⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか」の項目では高校内ガイダンス、大学内説明会、夏期無料講習会、無料公開模擬試験の実施などにより連携を図っている。

## (6). 教育環境

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	1	0
②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	1	5	3	0
③防災に対する体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	3	1	0

## ①課題

評価項目の全てにおいて「やや不適切」の評価意見があった。

「①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか」については、近年新設された学園内他校と比較すると、校舎の築年数が経過しており老朽化が否めず、それに伴い不具合が生じている箇所があることに対する指摘である。

## ②今後の改善方策

「①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか」については、改善可能なものについては引き続き、教育上の必要性を基準として優先順位を付け、整備や取り換えを行っていく。

「②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか」については、特にインターンシップについて平成27年度から懸案事項として挙がっているため、関係業界にインターンシップ先の開拓・交渉を行い、次年度は是非実現させたいところである。海外研修については、昨今のテロ問題など世界情勢が不安定であることへの不安もあるため、国内でグローバル体験ができる研修を検討し対応していく。

## ③特記事項

平成27年度の学校関係者評価委員会において「①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか」に関し、さらなる環境整備の向上について指摘を受けたことから、可能なところから改善していくと回答した。それを受け、まず知識向上・職業教育につながる書籍を用意し、図書コーナーの設置を行ったが、利用者が少ないとの指摘が挙がったため、平成28年度はその活用方法の改善を検討し、卒業論文作成・発表などの参考書物を備えることで利用者がやや増えた。今後も学生に対し、図書コーナーにある書籍の紹介を行っていく。

また、校舎の老朽化もあり、教室のカーペットに不具合が生じた箇所があったが、職員によりカーペットを新調し、改善を図った。

築年数の経過により、最新鋭の設備が整っているわけではないが、教職員、学生によって清掃を行い、快適さを維持している。

今後も可能な限り学生が満足できるように設備の改善に努めたい。

防災に対する体制として、毎年学生数に応じて非常用飲料・食料を備蓄し、いざという時のために教員に場所の確認、内容の確認を行っている。平成27年度では状況を知らない教員もいたが、改善を図り全教員が意識を持って対応している。

## (7). 学生の受入れ募集

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学生募集活動は、適正に行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	3	0	0
②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	6	0	0
③学納金は妥当なものとなっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0

## ①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価され、平成27年度と同様に「やや不適切」「不適切」との評価はなかった。

「②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか」の項目について、学園が想定している教育成果としては「公務員試験合格が最終目的ではなく、入庁2年目、3年目レベルの能力を備えたうえで卒業すること」としているが、募集活動時において正確に表現できていないところが課題である。

## ②今後の改善方策

従来より、学校説明会や体験入学会の際に、SA(スチューデント・アシスタント)として選ばれた在校生が入学希望者と直接接する機会を設けている。同世代の在校生が実体験を直接話すことで、より正確な情報を伝えることができる。

改善方策としては、文面だけでは表現できない内容を在校生を通じて伝達するべく、SAである在校生のトーク術・対応の指導を丁寧に行うこととする。

## ③特記事項

学生募集活動で使用する入学案内パンフレットを作成し、学校説明会や体験入学会の開催日、カリキュラムの例示、就職実績、卒業生の活躍状況、学内イベント、学園の独自制度、出願手続き、入学金、研修教材費、授業料、維持費別の金額を明示している。

学納金は、入学金、授業料、維持費、研修教材費で構成されている。また、一括納付だけでなく分割納付方法も複数用意し、納入方法6パターンの中から選択できることとしている。これにより学生及び保護者の経済的負担の軽減を図っている。

また、学生支援制度では特別支援制度として、資格または経歴によって認定する特別奨学生制度の他、兄弟姉妹等特別奨学生制度、日本学生支援機構奨学金制度、海外研修旅行支援制度を紹介するとともに、学園グループ提携ローン、国の教育ローンの説明も入学案内書によって説明されている。

## (8). 財務

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	3	0	0
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
③財務について会計監査が適切に行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	3	0	0
④財務情報公開の体制整備はできているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0

## ①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

## ②今後の改善方策

ホームページ上にて財務情報の公開が行われている。また、財務状態についても問題はないものと判断する。

今後も安定的な経営を行うべく、学生募集人数の増加を目指し、積極的な募集活動を行っていく。そのために、入学希望者のニーズと業界・採用側のニーズにマッチする教育内容・指導方法を引き続き検討する。教職員は、時代の変化に即応できる柔軟さをもって、常に新しい情報を収集し、募集活動へ反映させることとする。

## ③特記事項

当学園は借入金もなく、安定した経営となっている。予算、収支計画は理事会、評議員会の承認も受け、実行されている。

また、決算結果である資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表その他必要な財務諸表については、行政官庁へ提出を行っている。

## (9). 法令等の遵守

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0
②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	5	0	0
③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	2	1	0
④自己評価結果を公開しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	1	0	0

## ①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

平成27年度と比較し、「④自己評価結果を公開しているか」について「適切」との評価が増えた一方で、「③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか」の項目においては「やや不適切」との評価があった。

これは、自己評価の実施は行っているが全てを翌年に改善できていないことへの指摘である。

## ②今後の改善方策

「②個人情報に関しその保護のための対策がとられているか」の項目については、個人情報の取扱いに対する意識を維持・向上させるため引き続き啓蒙を行っていくほか、教職員に対して情報セキュリティマネジメント資格取得を推奨することとする。

「③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか」については、挙げられた問題点の全てをすぐに改善することは現状としては困難であるため、優先順位をつけながら実行できるところから改善を図ることとする。

自己評価結果は今後も引き続きホームページで公開する。

## ③特記事項

平成27年度の学校関係者評価委員会の中でもSNS(social networking service)に関連したリスクについての質問・意見が挙がっていた。以前より学生に対し、注意喚起はしてきたものの社会的問題となっていることを鑑み、インターネット上の動画アップや掲示板投稿でトラブルが起こらないよう、あらためてホームルームや授業の中で危険性について触れている。

特に、法令遵守・中立性・公平性が求められ、一般社会から厳しい目が注がれる公務員は、他の職業以上に情報の取扱いに注意が必要となる立場であるため、指導する教職員も注意を払っている。

なお、項目①にある「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営」については、問題がないと自負している。当学園は、教育基本法、専修学校設置基準を遵守し、また、個人情報保護法に基づく個人情報保護規則の整備も行き、適正に運営している。

さらに「番号法(マイナンバー法)」が施行された際には、学生への指導・助言も念頭におき、時代に対応できるよう新たな法令知識を身につけるための教職員研修を実施した。

## (10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	3	0	0
②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	5	0	0
③地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	2	0	0

## ①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

しかし、「②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか」の項目は前回評価時の「適切：やや適切＝1：7」と比較すると、改善は見られるものの「やや適切」という評価が多い。

これは、教員から学生へボランティア募集の情報を数多く伝えたが、参加する学生が増加しなかったことに対する指摘である。

また、平成27年度の改善方策で挙げた教職員の積極的なボランティア活動への参加についても一部の教職員のみであった。

## ②今後の改善方策

社会福祉協議会から紹介いただいた情報や県・市の広報誌などに掲載されている情報を基に、ボランティア活動紹介の種類を増やすと共に活動エリアを広げ、全ての学生が無理なく積極的に参加できる環境を整えていく。

そして、学生が体験したことをプレゼンテーションの授業で発表する機会を設け、学生の意識を変えていく。

教職員のボランティア活動参加については一部の教職員は積極的に行っているが全職員ではないため、役職者から全教職員に向けた啓蒙を引き続き行う。教職員のボランティア経験をもとに学生に対してボランティア精神の大切さを伝達する。

## ③特記事項

平成27年度は「①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」の項目において、「やや不適切」との評価意見があったが、昨年度は「やや不適切」の評価がなく、改善がみられる。

なお、現在既に附帯事業として社会人向け講座を行っている。これは「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献」に該当するものである。

公務員科の学生は人の役に立ちたいという奉仕の精神をもって公務員を目指している。その奉仕の心を、精神的なものだけでなく、学生自身の実体験・経験として形にするため、平成28年度も引き続きボランティア活動の奨励・支援に取り組んできた。

27年度の懸案事項であった「活動エリアが静岡市内のみとなっていること」に関しては、他市において行われている活動に参加する学生も見られ、やや改善してきた。また、時間が取れないという学生に対しては、大々的なボランティアだけでなく、通学途中のゴミ拾いや困っている人への声掛けなどの「ちょボラ運動（ちょっとしたボランティア運動）」の推奨を行っている。